



忘れられない二週間

王 欣 (浙江工商大学日本文化研究所 教員(助手)) WANG Xin

初めての日本の印象

昨年11月に神奈川大学21世紀COEプログラムの招聘により、訪問研究員として約2週間日本で調査を行った。

初めての日本は非常に感慨深かった。それまで7年間日本語を勉強し、また3年間日本語を教えてきて、本はもちろん、ドラマ、映画、テレビなどのマスメディアから日本のことはかなり知っているつもりだった。しかしやはりリアリティとしての日本を体験してみたかったのだ。

まず目に入ってきたのは、ラッシュアワーの満員電車、公園やアパートが建ちならぶ町並み、女子学生のスカート姿、どこでも鳴いているカラス、カウンターのあるラーメン屋など、それまでテレビでしか見られなかった日本ならではの風景だ。初めて本物を見たのに、なぜか懐かしい気がした。

しかし、最も感心したのは何と言っても日本人特有の優しさであった。お世話になったCOEプログラム拠点リーダーの福田先生をはじめ、指導教官の中島先生、チューターの丸山研究員(PD)、事務の長谷川さんたちは皆とても親切だった。また、寮の管理人や図書館の方、友人に紹介されたお茶の先生など偶然出会えた人たちも、皆優しくかった。

私の研究

そこで、この日本での経験を一人でも多くの中国人に教えたいと考えた。今、日本のこと、日本人のことをあまり知らない中国人が多い。同じように、中国のこと、中国人のことをよく知らない日本人も結構いる。それこそお互いの誤解を招いた原因となっているのだと思う。

私のように自分の目で日本を見て、日本人を見て、確かめることができない人が多いから、お互いを知るための宣伝の大切さは言うまでもない。その宣伝に最も重要な役割を担っているのは教科書ではなからうかと思われる。

子供が最初に触れる正式な読み物は教科書である。小学校入学から高校卒業までの12年間、子供たちは教科書を手放すことができない。教科書はどんな本よりもよく読まれ、よく使われるからである。そして、教科書に載っている写真は子供たちに分かりやすくイメージ化させる機能がある。

今回の滞在中、国立国会図書館、国際子ども図書館、教科書図書館、神奈川大学図書館、東京大学附属図書館などの図書館を利用して、中国に関わる写真が載っている社会、地理、国語、歴史などの教科書を中心に資料を調べた。まず驚いたのは、日本の教科書の種類の多さである。統一された中国の教科書と違い、日本では4年ごとに新しい教科書を発行する。

しかも、各出版社がそれぞれの教科書を出版する。もちろん、その資格や内容、部数などは文部科学大臣により決定されるし、学校によって、異なる教科書を使うことができる。

やはり歴史的にも往来が頻繁にされている国であるため、中国関係の写真は数的には多い。なかには、中国国内の教科書と同じような写真もあるが、国内で見ることのない写真もある。前者には、中国人に馴染み深い歴史上の人物や、近代中国の目覚ましい発展振りや、中国特有の風景などの写真が挙げられる。後者には、中国ではすでに歴史の舞台から消えたような風景が、日本の教科書では現在でも見られる風景として扱われているもの、中国では敏感な話題としてあまり掲載されないもの、戦争問題で両国の立場の違いから選ばれたものなどの違う写真が挙げられる。このように、「ああ、中国はこういうふうに日本で紹介され、子供たちは教わっているのか」と、調査をするにつれ、ますます興味を覚えてきた。

中国や韓国などの東アジアの国で教科書問題が取り沙汰されているが、実際には、事実を歪曲したような教科書はごく少数であり、私には見つけれなかった。それは事実として、あまり知られていないのは誠に残念である。

中国の教科書にも日本に関わる写真がたくさん載っているので、日本人にとって、どうしても理解できない点も多いだろう。今回調べた一冊の本の中に、そういう内容があった。確かに、中国人の視点から見た日本と、日本人自身が日常見ている日本と、食い違いが出るのも不思議ではない。同様に、日本人の視点から見た中国も、当然中国人の頭の中の中国と多少食い違っている。しかし、これは却ってお互いの文化を理解するいいチャンスになると思う。自分の国をもっと理解しようとするなら、他のいろいろな視点から見る必要がある。

終わりに

私が在籍している浙江工商大学日本文化研究所は、両国の理解と交流を深めようと努力している機関である。現在、人員体制は専任が14名で、内訳は教授1名、助教授4名、講師4名、助手4名、事務担当3名となっている。古代中日文化交流史、近代中日文化交流史、日本語学、日本漫画の4分野を研究している。学生数は2学年で175名である。

日本語を担当している私は、学生に言葉を教えるだけではなく、両国の文化を理解させることも大切だと思った。

(王欣氏は2005年11月8日～11月21日訪問研究員として来日。)